

# とちぎフードイノベーション 戦略推進地域

とちぎ特産物の多面的高度利用によるイノベーション  
～フードバレーとちぎを目指して～

参画機関 (太字はプログラム実施機関)

産…**栃木県産業振興センター**、  
栃木県経済同友会 ほか  
学…**宇都宮大学**、帝京大学、  
獨協医科大学、  
佐野短期大学 ほか  
官…**栃木県農業試験場**いちご研究所 ほか  
金…足利銀行、栃木銀行

## 地域イノベーション戦略

栃木県の強みである生産量日本一の「いちご」を活かし、輸出に対応できる安心・安全で安定的な生産・加工技術の開発、機能性成分の探索、輸出を視野に入れた流通までの一貫したイノベーションを創出し、食関連産業の活性化を通じて国内外での競争力の強化を目指します。

なお、本事業は、食に関連する産業の振興を図る“フードバレーとちぎ”構想の一環として多くの農業者及び商工業者の参加の下、推進するものです。



プロジェクトディレクター

**伊藤 勤**

略歴：栃木県入庁後、栃木県企業局長、栃木県理事を経て、栃木県産業振興センター理事長、現在に至る。

栃木県は大消費地である首都圏に位置し、工業(H24:製造品出荷額全国第15位)と農業(H24:農業産出額全国第8位)がバランスよく発達し、県勢の発展を支えています。

農業分野では、品種開発や栽培技術の革新により「とちぎのいちご」は45年連続で収穫量日本一を達成していますが、今後の市場動向等を鑑み、生産から加工、流通まで各段階での更なるイノベーションを創出し、国内市場に加え海外市場での競争力強化に取り組んでいきます。

## 事業の内容

### 【全体計画及び成果】

プログラムでは、①宇都宮大学が中心となり、いちごの付加価値を高め国内外でのさらなる利活用を促進するため、関連する研究者の集積を行って研究開発を強力に推進し、②産業振興センターが中心となり研究成果をすみやかに実用化に結び付けるための強力な知のネットワークを構築、③地域の中小企業などの研究開発を支援し技術シーズの実用化を加速するため宇都宮大学の食品分析や加工に関する研究設備・機器の共有化を進め、④若手人材の育成を図るため県内大学等の協力の下、人材育成プログラム、各種講習会、インターンシップの実施を通じて有用な人材の確保を支援します。その結果、食関連産業の活性化を通じて競争力を強化し、“フードバレーとちぎ”の実現を目指します。



高濃度CO<sub>2</sub>による害虫駆除方法の開発

### 【実施する支援メニュー】

1. 地域イノベーション戦略の中核を担う研究者の集積  
(実施機関：宇都宮大学)

招へい研究者4名を加え、研究開発を推進します。

主なテーマは、①輸出に対応した安心・安全な生産流通技術の開発、②いちごの輸出促進を目指した機能性成分の探索・評価、③いちご果実の長期輸送中の収穫後生理と健康増進成分の変化、です。

#### 「とちぎフードイノベーション戦略」の概要

(平成26年3月24日策定)

|      |   |
|------|---|
| テーマ  | とちぎ物産の多面的高度利用によるイノベーション<br>～“フードバレーとちぎ”を目指して～   |
| 全体構想 | 栃木県が生産量日本一を誇る「いちご」を活用し、生産から加工、流通までの一貫した技術開発により、食に関連する産業の活性化等を通じて、持続的なイノベーションを創出し、国内外での競争力を強化する。 |
| 推進方策 | 生産：・生産性や品質を高める技術開発<br>・機能性成分を多く含む品種の選定 等<br>加工：機能性成分の探索と活用による加工食品の開発 等                          |
| 推進主体 | 流通：高級いちごを高品質状態で世界市場に輸出する技術開発<br>とちぎフードイノベーション推進協議会  |

2. 大学等の知のネットワークの構築

(実施機関：栃木県産業振興センター)

大学等栃木県内各研究機関のネットワークを構築し、地域企業との共同研究や新製品開発、起業支援等を行います。

3. 地域の大学等研究機関での研究設備・機器等の共用化

(実施機関：宇都宮大学)

宇都宮大学バイオサイエンス教育研究センターに食品総合分析室を設置し、設備・機器を共用化し、地域の研究開発力強化を促進します。